

トリ目・ウオの目・ちか目はち目[®]

「朋ありアジアより来る また悦ばしからずや」



福岡女学院大学客員教授

齋 藤 裕 三

今月は、神様も年に一度の出雲へ出張さあ、我々もあやかっけて秋の行楽だ！行楽といえばやっぱりテーマパーク。すこし前だが、筆者も「ハウステンボス」(H.T.B.、佐世保市)へでかけた。

H.T.B.には、神近義邦社長(当時)という大ボスが一人いらつしやった。つまりハウスワンボス。神近氏は、'83年に前身「長崎オランダ村」を開業させた方だ。日本にも「博物館明治村」(昭和四〇)など、いわゆるテーマパークはあつた。

しかし、アメリカ的テーマパークの草分けは、'83年に開業した「東京ディズニーランド」(TDL、千葉県浦安市)である。TDLは、開業以来一八年間に二億六三〇〇万の入場者を集め健闘が続く。

この三月、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」(U.S.J.、大阪市)が、鳴り物入りでオープンしたのは記憶に新しい。観客入場数は、八月半ばに年間目標の半数に当たる四〇〇万人に達したという。そして、九月四日、TDLに隣接して、「東京ディズニーシー」(TDS)が開業した。こちらは宿泊型で、ショーやグルメも楽しめる。お酒もOK。

八月四日、初日の入場券を発売したところ、発売開始時間午前七時の前に四五〇名の行列ができ、二時間で完売したそう。ご苦労さま。「変人」小泉総理でさえ、靖国参拝の日を変えたというのに。さて、国内には既に六〇以上、九州域内にも大小二〇を超えるテーマパークがあるという。

大崎周水堂 (271)1696

TDLの成功とバブルが災いして、「テーマパークを作れば人が集まる」と自治体などが勘違いし、地元企業などと第3セクターを作った。乱立気味のテーマパークの多くが今行き詰まっている。

九州のテーマパークも例外でない。観客減少、多額の債務超過、新規投資不能、運営ノウハウ不足などで、殆どが悪戦苦闘を余儀なくされている。実情を見よう。

まずは先述の「ハウステンボス」。前身の「長崎オランダ村」を吸収し、神近義邦氏を社長に、'92年に開業。'96年度の入場者数四二五万をピークに下降を続け、昨年度は三九〇万人の予想が三七六万人。開業時の入場者数に戻ったわけである。神近氏が退任し、銀行から債権放棄を取り付け、和才昌二新社長のもと「ユニハウステンボス」再建5カ年計画を、昨年度から発足。今年の株主総会では、森山道壮氏に再度社長交代した。今年四月から入場料等の改定や、希望退職者募集を発表し、経営改善を図っている。

次に、昨年サミットの外相会議が開催された宮崎市の「シーガイア」はどうか。'88年七月、リゾート法第1号指定、総工費二〇〇億円で計画開始。宮崎県、宮崎市、地元経済界、フェニックス国際観光が出資して第3セクター「フェニックスリゾート」(佐藤棟良社長)を設立。




創業大正15年
郷土料理
Japanese Restaurant

福岡市博多区中洲5丁目3-16 ☎(291)6331
営業時間 午前11時半～午後10時

贈ります。博多の心。—

博多人形
博多織



増屋

博多上川端商店街 ☎(281)0083番
天神地下街店 ☎(771)1070番

93年、「オーシャンドーム」、94年、ホテルなどの施設オープン。99年の決算で累積赤字一一五億円を計上し、銀行融資停止。2000年四月、木許英太郎氏に社長交代。累積赤字が一二八億円に膨張し、借入れ総額が二七六二億円で。

同社は自主再建を断念、今年二月宮崎地裁に会社更生法の適用の申し立てをした。現在、米国の投資会社「リップルウッド」による再建計画が進んでいる。

九州域内では、このほか別府の観光ホテルの大手「杉乃井ホテル」、嬉野観光の「肥前夢街道」、大牟田市「ネイブルランド」、荒尾市の「アジアパーク」の経営破綻など、よいニュースが見当たらない。

北九州市の「スペースワールド」も、観客数が伸びない。驚きと感動の他に、楽しく学ぶ要素を加える（川村祐三社長）ことで、入場者の増加を図る。具体的には、開催中の「北九州博覧祭」のために建設された施設を、「環境ミュージアム」として来年四月正式オープンする。博覧祭の入場者も予想の六、七割程度。

テーマパーク不振の原因は何か。

もちろん、最大の原因は、バブル崩壊による日本経済の停滞である。国民のレジャー支出は減少し、『レジャー白書2000』によると、『レジャー1』による1より仕

額縁 洋画材料・デザイン用品
大崎周水堂
(271) 1696

事」派の人が増加し、82年以前に戻った。しかし、バブルは異常で、それ以外にも原因がある。例えば、ずさんな入場者予測、経済見通しの甘さ、唯我独尊の事業計画、サービス産業に対する認識の欠如、社員教育の不徹底、PR不十分等々。

第3セクターなるものは、出向者が構成され、筆者の経験でも得てして無責任体制となる。役人にはサービス業は向かない。資金を投入し施設を「作りさえすれば人は集まる」という、安易で横並びの発想が最初からあったのではないか。

だから、改善の糸口もまさにそこにある。新九州国際空港の建設が論議されたとき、九州が一つでないことを痛感した。今、政府の地方制度調査会で「道州制」が本格的に検討されている。観光産業にとっても、各県レベルより上の、九州州（？）レベルの視点と権限でアドバイズできる機関が必要ではないだろうか。

もう一つ。九州だけ考えると、首都圏や京阪神地区の人口に遠く及ばない。とすれば、アジアからのお客様を呼び込む以外にない。昨年、中国では日本への観光旅行が解禁された。韓国や台湾からは、既に多くの観光客が九州を訪れている。一昨年の訪日外国人四四四万人は、世界的には第36位と極めて低い。日本人海外旅行者数（平成12年一七八二万人）と較べても、あまりにも不均衡。しかし、ア

ジア地域からの旅行者が六割を占め、特に中国からの伸びが大きい。彼らはテーマパークや温泉に大きな関心を示す。

昨年五月開催された「観光産業促進フォーラム」で、外国人の訪日促進を図る「新ウエルカムプラン21」が採択された。その中には、「東アジア広域観光交流構想」という項目が含まれている。

アジアからの観光客が、日本旅行に満足して帰国するかどうかは、サービス業関係者はもちろん、われわれ一般市民の態度にかかっていることを忘れてはならない。市民が彼らに親しく声をかけているのを、残念ながら見ることがない。

彼らは、かけがえのない日本のお客様であり友人である。政府ももっと中国や韓国の人々の感情を尊重すべきである。

色々な支援を行い、彼らに経済的ゆとりができれば、日本への潜在的旅行者の数は無限で、首都圏人口の比ではない。

彼らが日本旅行に満足して帰れば我々にとっても得策で、友好と相互理解の最高の手段となる。身近な国際交流である。

サービス業で大切なのは、手をかけること、心を尽くすこと。つまり人である。

皆さん、もしリストラされても、くよくよすることなんかありませんぞ。元部長、たなんて格好つけず、躊躇することなくサービス業に転職し、もう一度このことを実践してみようではありませんか。

CLUB AZAMI



博多区中洲4丁目1-37
TEL 代表 (281) 0417